

エゾムラサキ（ムラサキ科）

観察のポイント

深山の林に生え、小さな青くかわいい花を咲かせます。咲き始めは小さいですが、どんどん花を付けながら伸びていくので、高さ40センチくらいまでになります。ワスレナグサに似ていますが、エゾムラサキのほうがガクの切れ込みが深いことで区別されません。

ヤマブキソウ（ケシ科）

観察のポイント

レモンイエローの花がとてもきれいです。このヤマブキソウは、ヤマブキという木の花に似ていて草なので、この名が付けました。近くあるヤマブキと花を比べてみよう！

シロバナノヘビイチゴ（バラ科）

観察のポイント

日当たりのよい草原で見られます。地をはう長い枝を出し、まばらに広がって白い花を付けます。このイチゴの実は夏ごろ熟し、甘みが強くておいしいです。黄色い花を付けるヘビイチゴも毒ではなく食べられますが、スポンジのようで味がなくあまりおいしくありません。

サクラソウ（サクラソウ科）

観察のポイント

サクラソウは野生ではなかなか姿を見られなくなった植物です。花をよく見れば、虫ピンの頭のようなめしべが見える花と、おしべのギザギザが見える花があるよ。おしべとめしべの長さを変えて、自分で受粉をしないように工夫をしています。マルハナバチが花粉を運びます。

オキナグサ（キンポウゲ科）

観察のポイント

花の後にできる実が白くふさふさしているので、おじいさんの白髪にたとえてこの名が付けました。よく見るとかわいいお花も茎も葉っぱも全身毛だらけです。どうしてこんなに毛むくじゃらなのか考えてみよう！

フデリンドウ（リンドウ科）

観察のポイント

日当たりのよい所が大好きで、林道や明るい林の陽だまりに咲いています。この花は太陽が出ていると開き、日がかげるとすぐにしぼんでしまいます。たくさんの種が入った果実は、雨の時だけ開きます。つぼみの時は全体を真横から見ると本当にふでにそっくりです。そんなところから名が付けました。

ラショウモンカズラ（シソ科）

観察のポイント

花にはかたそうに見える毛がたくさん生えていて、真横から見るとがんじょうな腕のように見えませんか？そんなところから、昔、羅生門（らしょうもん）で渡辺綱が切り落としたと言われるオニの腕にたとえられて、この名が付けました。また、花が終わると長い茎を出すので「かづら」と最後に付いています。

ウスバサイシン（ウマノスズクサ科）

観察のポイント

この植物はヒメギフチョウの食草として有名です。ハート型の葉っぱの下に隠れて、地面ぎりぎりに目立たない茶色の花を咲かせます。しゃがんでそっと観察してみよう。小さな虫が花粉を運んでいるかもしれません。



オキナグサ

オキナグサ (キンポウゲ科)



エゾムラサキ

エゾムラサキ (ムラサキ科)



フデリンドウ

フデリンドウ (リンドウ科)



ヤマブキソウ

ヤマブキソウ (ケシ科)



ラショウモンカズラ

ラショウモンカズラ (シソ科)



シロバナノヘビイチゴ

シロバナノヘビイチゴ (バラ科)



ウスバサイシン

ウスバサイシン (ウマノズクサ科)



サクラソウ

サクラソウ (サクラソウ科)